

1-8

| | |
|----|------------------------|
| 演題 | いのちのバトンを繋ぐ |
| 副題 | ～見守りセンサーを活用した看取り委員の取組～ |

| | |
|-----|----------------|
| 法人名 | 社会福祉法人 ユーアイ二十一 |
| 施設名 | 太陽の家横濱羽沢 |

| | |
|--------------|---------------|
| 発表者名 (職種) | 阿部 直樹 介護職員 |
| 共同発表者 | 小林 しのぶ |
| 共同発表者 | |
| 共同発表者 | |
| 共同発表者 | |

| | |
|---------|--------------------------|
| 都道府県 | 神奈川県 |
| 住所 | 横浜市神奈川区 羽沢町 2-1 |
| TEL | 045-442-4907 |
| FAX | 045-442-4906 |
| メールアドレス | jinzai_ikusei@ui21.or.jp |
| URL | https://www.ui21.or.jp |

| | |
|---------------------------|--|
| 今回の発表施設 またはサービスの 概要 | 平成 30 年 4 月横浜市神奈川区で開設した本入居 110 名・短期 10 名の特別養護老人ホーム。 『ご入居者一人ひとりの本来持っている想いや力を大切にされた個別ケア』を実践。施設内は素 足で過ごせるよう畳や絨毯を採用し和モダンを基調としています。 |
|---------------------------|--|

研究の目的、PR ポイント

開設時よりアームスを採用、力を入れているのが看取り介護である。アームスを活用する事で大きな成果が期待できる。臥床時の体調を把握、観察することができる。看取り時、変化する状況を的確に読み取る、最期の時を見送る心構えをすることができる。夜間帯は介護初心者にとって看取りは難易度の高いケアである。アームスを活用することで初心者でも経験者と同じように変化を認めることができ、有効かつ確実性に期待できる。「決してひとりでは旅立たせない」【命のバトンを繋ぐ】ツールとして役立てたいと考えます。

取り組んだ課題

看取りケアにアームスを取り入れることを課題に選んだ。看取りに対してユーアイ二十一の理念である『安心・温もり・満足』の精神を貫いていきたい。『決して一人で旅立たせない』を看取りの基本であると考え、アームスを活用する。アームスのデータは看取り時刻々と変わる数値を直ぐに確認でき、必要な心拍・脈拍・呼吸数を把握できるデータを頼りに行動することができる。

具体的な取り組み

【看取り】について看取り委員会が中心となり、研修会を実施※決して一人で旅立たせない。※命のバトンを繋ぐ。一人ひとりが体験を学び取ってほしい研修の趣旨であった。研修後に提出された報告書を分析し、参加者の理解度及び反響などを分析していきアームスの活用方法を周知する。その活用方法は、波形グラフを用いて心拍などの推移を考察する。看取り時には呼吸低下アラートなどで、変化を知らせる個人のデータの差異を見知る事により誰でも早期対応が図れる。

活動の成果と評価

全職員のアームスに対する理解が上がり、リーダーを中心にアームスのデータを基に看取りの対応が出来るようになった。特に不安だと感じる夜間帯の対応は、日中のデータと本人の状態を確認し、申し送りを行う事で不安は解消されたという声が多数あがって

いる。ご家族からも以前は巡視の際の状況変化と発見時の状況を職員の見解で説明し、その職員の感覚的な部分があったが、この取り組みを始めてからは【いつ】【どのように】【どうなった】かを根拠のあるデータを基にご家族に説明し、ご理解されるご家族が殆どである。呼吸や心拍数の変化をアラートで確認し、事前にご家族へ連絡出来ている事も増え、今回の取り組みのテーマである「決して一人では旅立たせない」を実現できている。

今後の課題

施設で「決して一人で旅立たせない」というテーマをより深く浸透させていくその為にアームスを活用する、根拠のあるデータで職員・家族への安心・温もり・満足を追求していく。アームスの活用をより浸透させていく為、マニュアル作成と操作や仕組についての研修を行い、職員のスキルアップを目指す。これらを実施していく事で今後、職員の経験値に関わらず、根拠ある説明をご家族にできるように取り組んでいく。

参考資料など

株式会社バイオシルバー
a a m s (アームス)